



# 蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 23

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

高瀬大坊駅(現みの駅)  
昭和38(1963)年頃  
三野町

高瀬大坊駅は、昭和25(1950)年に大坊市の期間中に、列車が臨時停車する仮駅としてスタートする。高瀬大坊駅は地元の強い要望によって開設された駅で、当初は駅舎やホームの建築を地元が行っていた。昭和36(1961)年には高瀬大坊駅の開通式が行われた。平成6(1994)年に「みの」駅に改名する。

## 「思い出の1ページ」

「高瀬大坊という名前は、近くに大坊さんがあったからつけられたんだと思います」

駅の近くに住む嶋田義久さん(74)は、懐かしそうに話してくれました。

「駅ができたとき、私はまだ子どもでした。最初はホームも2両でいっぱい短いものでしたが、その後、地元が駅舎を建築したりホームを延長したりしたそうです。駅の設置のために当時の下高瀬商工会の皆さんが署名運動などをしていただいたのを覚えています。

昔はこの駅で降りた人が「高瀬やと思って降りたけど、ここはどこやろか？」ということがよくありました。次の汽車まで3、4時間待つなら、歩いたほうが早いって、歩いて高瀬に行く人もいましたよ。今から20年前、三野津中学校の子どもたちから「三野町なのに、なんで高瀬大坊駅？」という声があがって、今の「みの駅」という名前に変わりました。タレントのみのもんたさんも来たから、当時の様子をテレビで見た人も多いでしょうね。

ほとんどありませんでした。でも、朝6時9分の汽笛が目覚めたり、夜中に貨物列車が通ると「もう2時やな」とか。たまに親戚の人が泊まりに来ると、うるさくて寝られんと言っけりです。

私の一番の駅の思い出は、今から50年前の昭和38年11月、全国青年大会に陸上の選手として出場したとき、当時の町長や議長、地元の皆さんが万歳をして見送りをしてくれたことです。あのときは本当にうれしかったですね」

### 編集後記



人を呼ぶ仕組みを作ろうと、三豊を見直し、今あるものの魅力を新しい視点で引き出している皆さんの皆さんにお会いしました。変わろう、変えようとしている皆さんが口をそろえて言う言葉は、「何十年後のかの三豊市の子どもたちの笑顔のため」。変わることに、誰より悩みなながらも挑戦する姿は、三豊を誰よりも愛し、守ろうと一歩を踏み出している姿でした。